

4-4. 報告〈特任教員・センター員・客員研究員だより〉

〈客員研究員〉

滋賀大学建学の精神「土魂商才」と高島市中江藤樹市民劇とふるさと納税

滋賀大学 産業共同研究センター 客員研究員
木村勝則税理士ITコーディネーター事務所

木村 勝則

1. はじめに

1609年(慶長14年)築城の世界遺産¹で国宝の姫路城²が築城400年の節目を迎えます。今年も姫路城の三の丸広場³の桜は咲き乱れ、あたかも400年の長きにわたる栄枯盛衰を姫路城と桜の花びらが表現し語っているように思えます。私は美しい姫路城の三の丸の咲き乱れる桜を見てみると、戦国の世と同じ「諸行無常」⁴を感じずにはいられません。その姫路城が今年、昭和39年の修復以来45年ぶりの「平成の大修復」⁵に入ります。その財源の28億のうち10億ほどを、豊臣秀吉⁶が姫路城の姫山に城を築城した逸話にちなんで、現在の姫路城修復の財源を目的とする「ふるさと納税」⁷が今年4月から実施されました。これに賛同する人々や観光に来た外国人の方々から、もうすでに多くの寄附が集まっていると聞いています。私も世界一優雅な城、姫路城のために寄附をしたいです。

2. 自発的寄附の必要性

【1】国、地方自治体の財政難

少子高齢化で成熟した経済大国のわが国、日本。国自身の負債、国債残高が右肩上がりに膨らみ、財政難で苦しんでいます。市町村の財政も地方交付金も削減され、地方の財源確保が課題になっています。

昨年、私が住む滋賀県高島市⁸は滋賀大学産業共同研究センター⁹と包括協定を結び、高島市のソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)¹⁰サイト、「きてねっと」¹¹において、高島市は滋賀大学の教授を高島市SNS会長に迎えました。私も高島市SNS副会長に選ばれ、多くの高島市民といろんな議論が行われ、悪化する高島市の財政についても話が及びました。

【2】納税者主義の開花

このSNSの日記のサイトで、私は高島市の財政確保の一環として「ふるさと納税」について、インターネットを通じて呼びかけ、さらに知り合いの税理士事務所に伺い、高島市への「ふるさと納税」の必要性を説明しました。「ふるさと納税」は、自発的な納税者の意思が反映され、シャープ勧告¹²以来、日本人がはじめて徴収される予定の国税と地方税の一部について、納税者が自発的に用途を決めることができる画期的な制度です。さらに寄附という納税方式を一部とるために、納税の時期を納税者自身が決定することができる納税者の立場にたった制度であると説

¹ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%96%E7%95%8C%E9%81%BA%E7%94%A3>

² <http://www.city.himeji.lg.jp/guide/castle/>

³ <http://www.himeji-kanko.jp/contents/castle/subwin/jukkei05.html>

⁴ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%B8%E8%A1%8C%E7%84%A1%E5%B8%B8>

⁵ <http://www.city.himeji.lg.jp/kouhou/kouhoushi/backnumber/200805/tokushu01.html>

⁶ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B1%8A%E8%87%A3%E7%A7%80%E5%90%89>

⁷ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B5%E3%82%8B%E3%81%95%E3%81%A8%E7%B4%8D%E7%A8%8E>

⁸ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%B3%B6%E5%B8%82>

⁹ <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/jrc/>

¹⁰

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BD%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9>

¹¹ <http://sns.city.takashima.shiga.jp/>

¹² <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%82%A6%E3%83%97%E5%8B%A7%E5%91%8A>

明しました。「ふるさと納税」は、利害関係の異なる国や県知事などの首長の会議の研究会によって議論されたために、所得税では寄付金控除で処理され、住民税の一角を限度に市町村などに支払う手数料の5,000円以外、最も有利な方法をとれば、実質負担なしに寄附したい市町村などの財政を支援できる制度となりました。給与所得者についても、自分自身で寄附したい市町村などを調べ、書類で申請し、年度末までに寄附を振り込む必要性があります。さらに「ふるさと納税」を実現するためには、所得税の申告期限までに寄附した領収書を添付し、申告する必要があります。この煩雑さのため、今年の「ふるさと納税」が予想していたほど寄附が集まらなかったという意見もあります。年末調整で完結できる制度への要望も聞きますが、給与所得者であっても確定申告において納税を強く意識できるいい機会ではないでしょうか。

私は「ふるさと納税」は、わが国における納税者の意思が反映される納税者主義の初めての開花であると感じています。さらに受け手の「ふるさと納税」を確保した市町村などは、知恵の出し合い、さらに姫路市のように用途についても知恵を振り絞る。そこに、今まで公的な団体の多くが希薄であった採算、コスト意識が感じられます。

最近、公会計の議論が盛んで、公的な自治体でも複式簿記で発生主義の会計システムを導入する傾向にあります。複式簿記導入には賛否はありますが、現在の100年に一度の不況下において、公的な団体の財政、予算管理の役割は増すばかりであります。このような変革期には、多くの人々を正しい方向に導く公共政策、まちづくりを担えるリーダーシップをとれる人が必要になってきています。

3. リーダーシップ

滋賀大学産業共同研究センターのある滋賀県彦根市¹³には、わが国を開国に導いたリーダー、井伊直弼¹⁴がいました。2年前には彦根城築城400年祭が行われ、「ひこにゃん」¹⁵というキャラクターで、彦根市内の商店街は特需のような賑わいを経験したと聞いています。乱世の世と現代社会において、400年とう時間がキーワードとなり、もしかしたら時代の変遷の時間的な区切りの400年という時間軸に意味があるのかもしれないと思うのは私だけでしょうか。

400年前のわが国は、まさに時代が動いていた戦国時代の世でありました。独創的な織田信長¹⁶、足軽から成り上がった天下人、豊臣秀吉、漁夫の利、徳川家康¹⁷という日本史を代表する歴史的なリーダーによって大きく国が変化、変わろうとしていた時代だったかもしれません。

今、日本は100年に一度といわれる世界的な大不況に直面し、苦境を呈しています。更に産業革命以来の工業化で、自然環境は破壊され、今年、メキシコでは新型インフルエンザが流行して多くの死亡者を出し、混迷しています。

これからの世界経済において、「環境」という言葉がキーワードになってきています。今のわが国、日本、いや全世界も大きな転換点を向えようとしていると感じています。わが国を代表する自動車産業も、化石燃料に頼らない環境保全を重視したハイブリッドカー¹⁸や電気自動車¹⁹の開発に本格的に取り組み始め、大きな転換点を向えようとしています。私が毎日通う京都大学²⁰では、ノーベル賞²¹を受賞された益川敏英²²京都大学名誉教授²³の講演が多数行われています。また、京都大学のリーダーシップはIPS細胞などの研究においても世界に貢献しています。

このように大学などが寄附を自主的に集め、研究する大学のあり方も大きく変わろうとしています。世界的には、今

¹³ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BD%A6%E6%A0%B9%E5%B8%82>

¹⁴ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%95%E4%BC%8A%E7%9B%B4%E5%BC%BC>

¹⁵ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B2%E3%81%93%E3%81%AB%E3%82%83%E3%82%93>

¹⁶ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B9%94%E7%94%B0%E4%BF%A1%E9%95%B7>

¹⁷ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%B3%E5%B7%9D%E5%AE%B6%E5%BA%B7>

¹⁸ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%96%E3%83%AA%E3%83%83%E3%83%89%E3%82%AB%E3%83%BC>

¹⁹ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%BB%E6%B0%97%E8%87%AA%E5%8B%95%E8%BB%8A>

²⁰ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%A4%A7%E5%AD%A6>

²¹ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8E%E3%83%BC%E3%83%99%E3%83%AB%E8%B3%9E>

²² <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%8A%E5%B7%9D%E6%95%8F%E8%8B%B1>

²³ http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/news_data/h/h1/news7/2008/081008_1.htm

なお、世界のリーダーシップをとり続ける国、アメリカ合衆国があります。この経済不況のなか、アメリカの大統領になったバラク・フセイン・オバマ・ジュニア²⁴のリーダーシップに今、世界中が注目をしています。わが国の400年前の戦国の世に、流れ星のように現れて消えていった戦国武将のように、時代を動かす、リーダーシップをとる人材が今、求められているのかも知れません。

時を同じくして、現在日本では、与党の内閣総理大臣が流れ星のごとく変わっています。日本に真のリーダーはいたのでしょうか。

4. 滋賀大学建学の精神「士魂商才」と中江藤樹

アメリカ合衆国²⁵の大統領のジョン・フィッツジェラルド・ケネディ²⁶やウィリアム・ジェファソン・クリントン²⁷にも愛読された、内村鑑三²⁸の著書「代表的日本人」にも選ばれた中に、日本の陽明学²⁹の祖、中江藤樹³⁰先生がいます。

先生の生誕の地、滋賀県高島市で生誕400年を祝い、昨年、400年祭が行われました。中江藤樹先生に関する数多くの行事が行われ、多くの市民が参加しました。

わが国、日本のリーダーシップをとってきたのは誰かと問われれば、私は、日本で一番最初に自宅を村人に開放し、私塾・学校を創られた中江藤樹先生だと思えます。愛媛県大洲³¹の武士を辞め、郷里の滋賀県高島市安曇川町の小川村に帰り、酒の販売の商売を営みました。中江藤樹先生は郷里の人々を助け、子供でも大きな川が渡れるようにと、リーダーシップをとりみんなの手で安曇川に橋を架けました。滋賀大学³²建学の精神「士魂商才」である、相互扶助、社会奉仕の精神を持った近江商人、百貨店の高島屋に代表される高島商人でありました。

私は、このような武士の精神と商人の知恵を兼ね備えた中江藤樹先生の生き方を学びたく、高島市の「中江藤樹生誕400年祭」の市民劇に応募しました。

昨年9月21日、近江聖人として教科書にも載っている中江藤樹先生の生きざまを、20数名の市民が演劇「藤の樹と風と一中江藤樹物語」として演じました。中江藤樹生誕400年祭市民劇は、生誕地である高島市安曇川町藤樹の里文化芸術会館で行われました。

中江藤樹先生は、日本で最初の私塾を作り、その教えは今もなお地下水のごとく受け継がれ、私のような独立開業をして税理士³³業務を営むものにとっても活かすべきところが多いと感じます。人は誰でも「良知」³⁴という美しい心を持っているという「致良知」や、物事をよく理解し、実行して初めて知ったことになるという「知行合一」³⁵など、沢山の教えがあります。このような学校を作ることができたのは、先生の人柄、能力もさることながら、諸説はありますが、当時、豪農であった親の財産を相続したからこそできた偉業だという説もあります。



[写真:高島市提供]

²⁴ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%A9%E3%82%AF%E3%83%BB%E3%82%AA%E3%83%90%E3%83%9E>

²⁵ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E5%90%88%E8%A1%86%E5%9B%BD>

²⁶ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%BB%E3%82%B1%E3%83%8D%E3%83%87%E3%82%A3>

²⁷ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%93%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%B3>

²⁸ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%85%E6%9D%91%E9%91%91%E4%B8%89>

²⁹ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%BD%E6%98%8E%E5%AD%A6>

³⁰ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E6%B1%9F%E8%97%A4%E6%A8%B9>

³¹ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%B4%B2%E5%B8%82>

³² <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BB%8B%E8%B3%80%E5%A4%A7%E5%AD%A6>

³³ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%8E%E7%90%86%E5%A3%AB>

³⁴ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%B4%E8%89%AF%E7%9F%A5>

³⁵ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%A5%E8%A1%8C%E5%90%88%E4%B8%80>

先生の本を数多く読みましたが、なぜ愛媛県の大洲藩を脱藩してまで武士を辞め、命がけで高島市安曇川町小川村に帰ってきたかが私はわかりませんでした。そんな時、高島市のホームページで、中江藤樹生誕400年祭市民劇の市民出演者を募集していることを知りました。そこで、私は、早速、中江藤樹先生役で応募しました。「なぜ、命の危険まで冒して、高島に帰ってきたのか」、これが私の思い、この理由を知りたくて、市民劇の参加を決意しました。

昨年の3月頃から台本を読み、配役は大洲の武士3役と小川村村民5役(商人)に決まりました。私の配役も「士魂商才」の精神、武士の精神と商人の知恵を兼ね備えた配役になりました。

私は独立起業家の経験を生かし、演劇の練習に望みました。4月には記者会見まで行い、テレビ、新聞社などの取材も受けました。最初は、これほどまでに真剣になるとは自分自身想像もしていませんでした。演出家の先生や高島市の職員スタッフの思いと真剣さが、皆を本気にさせたのだと思います。今から思えば、私にとってこの市民劇の稽古そのものが中江藤樹先生の藤樹書院であり、人としてどう生きるかを教わることができたものとなりました。この市民劇の稽古中に何日も徹夜で語りあった日々は、まさに中江藤樹先生の私塾に優るとも劣らないものとなりました。

数ヶ月に及ぶ連日の稽古で、中江藤樹先生の考えを学び、気づいたことも沢山ありました。市民劇に応募するにあたって、中江藤樹先生の本は誰にも負けないくらい読みましたが、中江藤樹先生の本当の気持ちはわかりませんでした。しかし、演劇の持つ力、演じることによる擬似体験に勝るものはなかったと思います。何故ならば、本では得ることができない大切なものが、演出家の先生と藤樹役の俳優さんたちの真剣さと本気さによって導きだされたからです。

この市民劇を一番見てほしかった母親に感想を聞いて、私の演じる姿を見て祖父の姿を思い出したという言葉に感動しました。その言葉を聞いた瞬間、私は自分自身の親の大切さに気づき、孝は繋がっていると感じました。

昨年の滋賀大学産業共同センター年報No.7³⁶の私の寄稿文章³⁷などの宣伝効果などで、市民劇自体の有料チケットは1ヶ月前にすべて完売し、多くの拍手と感動のお言葉を多くの方からいただき、大成功に終わりました。

後日、この演劇は、びわ湖放送³⁸さんにノーカットで(105分)テレビ放映していただきました。



[写真:高島市提供]

最後のカーテンコールで再び幕は開きませんでした。胸をはって、誇らしく真正面を向いた私たちの姿がありました。その時に私たちが流した涙がすべての苦勞、葛藤を、すべて洗い流しました。

400年前に生まれた中江藤樹先生の市民劇に参加し、多くの人々と出会い、演劇の持つ力で多くのことを学び、私自身も前向きに生きられるようになりました。この市民劇に参加した多くの人々がリーダーシップをとり、活動されていたことに感銘しました。多くの市民の思いや時間という寄附によって、市民劇は大成功に終わりました。

財政難に苦しむ地方自治体における、市民参加型の行政のヒントになる体験を私はしました。

私が滋賀大学で学んだ滋賀大学建学の精神「士魂商才」。この精神を通じて、地域社会でリーダーシップをとり、地域社会に少しですが貢献できたと感じました。

5. おわりに

私は、今年で滋賀大学産業共同研究センターの相談員3年、客員研究員6年目を過ごしています。

³⁶ <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/jrc/annual-7.html>

³⁷ <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/jrc/annual-no7/no7-4-4b.pdf>

³⁸ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B3%E3%82%8F%E6%B9%96%E6%94%BE%E9%80%81>

さらに今年の4月からは、京都に毎日のように通い、四季移り変わる加茂川の風景を感じながら学び、京都大学大学院で日々、新たな発見をしています。夢は、努力をし、諦めなければ必ず叶うと強く信じ、日々感謝をしながら、毎日試行錯誤しながら、チャレンジをしながら、前に一步一步進んでいます。

将来、中江藤樹先生が自宅で私塾・学校を創り、今なお、多くの人々に慕われているように、私も滋賀県高島市に住む人々が生き生きと学べる大学をこの地で創りたいと夢を大きく膨らましています。私も公共政策を学び、地域社会のリーダーシップをとることのできる人材になるべく、日々、努力したいです。

地域社会を担える人材は、都会ではなく、その地域にいます。NHK番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」の第35回(2006年12月7日放送³⁹)での青森県中津軽郡のりんご農家、木村秋則さん。彼は、無農薬りんごひと筋にこだわり、そのこだわりは、卓越した脳を持っていたサー・アイザック・ニュートンが、りんごが落ちるのを地球とりんごが衝突したと感じ、万有引力を提唱したように、木村秋則さんは、どんな逆境にも負けずにりんご自身の可能性の力を引き出されました。彼は、地域社会で活躍する無名の青森県中津軽郡のりんご農家です。私は、木村秋則さんにサー・アイザック・ニュートンより、プロフェッショナルとしての「すごさ」を感じます。まさに「士魂商才」です。この地域では木村秋則さんを慕い学ぶものが絶えない。地域社会を担えるリーダーシップをとれるすばらしい人材は、都会ではなく田舎に沢山います。

私が税理士、ITコーディネーター及び起業家として過ごして夢を膨らました滋賀県での10年間。多くの起業家たちと出会い、学びあいました。滋賀大学で学んだ滋賀大学建学の精神「士魂商才」が中江藤樹先生同様、今もこの近江の地滋賀県で、400年の時空を超えて脈々と生きています。

そして、今日も中江藤樹先生のように、大きく羽ばたくチャンスにチャレンジしています。



³⁹ <http://www.nhk.or.jp/professional/backnumber/061207/index.html>